名古屋女子大学　紀要　41（家・自）187～195　1995

生活科学への自然地理学的アプローチ（第5報）
―― 日常生活に利用される気候・気象に関する文献 ――

井上啓男・広　正義

An Approach Based on Physical Geography to Domestic Science (V)
– The Literature on Climate and Atmospheric Phenomena Utilized in Daily Life –

Hiroo INOUE and Masayoshi HIRO

緒　　言

自然地理の主流と考えられる気候（気象も含め，以下同じ）はわれわれの日常生活やわが国の各産業界との密接な関係を年々深化させている．

最近の例をあげれば，1993年の本格的冷夏はわが国の基幹産業とも考えられる米作の作況指数を著しく低下させ，13年ぶりの冷害をもたらし，生産者，消費者ともに大きな被害を受けたことは衆知のことである．また，1994年の記録的猛暑は，米作の作況指数をいくぶん回復させたが，他の農作物については，猛暑に伴う干ばつと少雨のため減収の傾向を見せはじめているものもある．家電業界では冷房器具の売り上げ増，ビール業界では過去最高の消費量増加（5.9%増 ― 国税庁まとめ ―），電力販売収入が増加の電力産業，さらに，少雨が原因となった西日本各地の水源地の水不足は，各地方自治体が渇水対策を講ずる事態を招き，日常生活および各産業にきびしい節水が要請されて日常生活に不便をもたらし，とくに，産業界では業務の中断が行われたところもあった．日常生活，各産業界と気候とのかかわりには明暗がつきものである．

著者らは，日常生活や各産業界と気候のかかわりが拡大深化しているという考えを持続しており，そのことを知る一つの方法として日本国内で出版発行されている関連文献の収集と文献の検索を行ない過去4回にわたり報告を行なった（名古屋女子大学紀要，第**27**号，第**32**号，第**34**号，第**36**号）．いずれも日常生活や各産業界が利活用に対応できる文献の所在の確認と文献の利活用による気候の知識が正確に理解できるよう着目した．

本稿は，第4回報告以降の文献収集と文献検索で新たに見出したものついての第5回文献目録作成の報告である．

文献目録作成の方法

1．文献目録作成のための日本国内で発行されている文献収集と文献検索は名古屋女子大学図書館のほか，岡崎国際短期大学図書館・三重大学図書館・日本気象協会東海支部（名古屋市）図書室・国立国会図書館文教調査室の諸機関および，名古屋市内の各書店を利用して行なった．また，1994年版日本書籍総目録 ― 書名編 ―（日本書籍出版協会），関連図書出版の図書目録とパンフレット，リーフなども利用した．

2．文献の収集と検索は，近年出版された単行本が主であるが，専門的雑誌の増刊号からも選定を行なった．

3．文献収録カードを作成し，文献収集と文献検索を行なった書籍と雑誌について配列番号（第1回文献収集，文献検索からの継続点数）・文献の名称・著者名（編者名と監修者も含む）・発行（刊）所名・初版発行年度（西暦）・総ページ数の順にカード上に記録した後次の6分野に分類して整理を行なった．

(1) 日常生活一般・各種産業と経済，経営・健康と疾病・各種レジャーなどと気候のかかわりが主な内容となっているもの．

(2) 気候変動・気候変化・異常気象・気象災害（気象業務法に含まれている火山噴火と地震による災害も含めて）と防災を主に対象としているもの．

(3) 気候にかかわる文学（随想を主に）・歴史・俚諺・歳時記など．

(4) 気象業務と行政のことを対象としたもの．

(5) 気候誌に属するもの．

(6) 気候の基礎的知識習得に適切と考えられるもの．

（各分野についての意味づけは，すべて前報告で行なったので省略した）

文献目録作成の結果と考察

77点の文献について収集と検索を行なったが，その中から70点を選定し6分野に分類整理を行ない，それぞれの文献については内容紹介あるいは抄録を記し，利用の便宜をはかるための考察を行なった．

日常生活一般・各種産業と経済，経営・健康と疾病・各種レジャーなどと気候のかかわりが主な内容となっているもの．

357　海洋気象のＡＢＣ：福谷恒男：成山堂：1988：176P　とかく専門的になりがちな海洋気象を，基礎からわかり易く解説した入門書で，マリンスポーツを楽しむ人，これから始めようとする人に好適な書．

358　お天気春夏秋冬**おもしろ雑学：平沼洋司（監修）：日東書院：1989：323P**　天気に興味を持ち，自然に目をむければ，季節の移り変わりなどの発見もあり，生活も一層楽しく豊かなものになる．そんなとき，ちょっと開いて見たくなる本．

359　くらしとビジネスの**お天気経済学：平沼洋司：恒友出版：1990：281P**　冷夏や猛暑の泣き笑いなど経済活動の明暗を年代別に分析，解説予報でかせぐ気象会社の役割，実用化が待たれる気象資源エネルギーの現状などを紹介する．気象庁現役予報官による肩の凝らない解説書．

360　産業と気象の ABC ― ビジネスに生かす気象情報 ― **：朝倉　正（編著）：成山堂：1990：250P**　天候の情報を企業戦略の一環として積極的にとりいれることが産業界で注目を集めている．産業に役立つ気象情報，天気と消費行動，気象変動と電気需要，家電品と気象，異常気象への対応，景気と気象などをわかりやすく説明．

361　異常気象で世界のビジネス地図が変わる ― 商品需要・相場・経済の動きを先取りする気象情報の読み方 ― **：馬場正彦：ＨＢＪ出版局：1990：240P**　過去そして現在の気象・気候と人間社会との係わりの中で，人間の生存活動であるビジネスがどのように影響されてきたかを明らかにするとともに，ビジネスの世界がどのように変化・発展するのか，さらに新たにどのようなビジネスが創造されるかなどについて考察．

362　四季の農業気象台：内嶋善兵衛：農林統計協会：1990：159P　著者が10年にわたる各月の農業気象情報の蓄積を四季の移りを代表する気象や気候を選んで再整理したもの，気象変化

と農業の関係を見直し，新しい農業のあり方を考えるのに好適の必読書.

363　釣り人のお天気学・**天気図と遊ぶ：島川甲子三：東海釣りガイド：1990：264P**　釣り行前日の夕刻のテレビ天気予報の予想図をよく見ること，釣り場に着くまでの空模様と，着いてからの現場の天空と水面をよく見ること，釣り始めたら時々頭上の天空と水面の現況と変化に注意することなど，釣行を安全に楽しむための好適書.

364　**気象で読む身体：加賀美雅弘：講談社：1991：208P**　気象と人体の相関を科学する生気象学と，古代医学や風水思想との以外な接点，自然と人間の調和的関係を探る，医学地理学を試みる書.

365　おもしろい**気象情報のはなし：荒野詰也：日刊工業新聞社：1991：224P**　最近は気象情報が容易に得られ活用しやすい時代であり，このような環境の中で気象情報の活用が企業の激しい競争の時代での生き残りの必須の条件となりつつあるとの論述である．とくに印象的なのは家電産業界と気象のかかわり，天気予報と経済価値，天気予報と経済効果という内容である.

366　**生気象学の事典：日本生気象学会（編）：朝倉書店：1992：464P**　生物と気象の関連を学際的にとらえ，重要項目を見開き2ページでわかりやすく解説した事典．健康科学，基礎臨床医学，被服・食物・住居など家政学，建築・環境・衛生など工学，生物・気象など理学，生物資源科学など多彩な分野を総合.

367　**季節性うつ病：ノーマン・E・ローゼンタール・太田龍朗（監訳）：講談社：1992：253P**　人間の感情や行動を思いがけない深さで左右している人間の季節性を精神医学の視点から解明し，うつ病状のケーススタディーからSAD（季節性感情障害）への光の治療効果を検証.

368　中高年のためのわかりやすい**山の気象と天気図：銀谷国衛：白山書房：1992：206P**　登山の形態が多様化するとともに，近年遭難事故も大量化の傾向にある．本書は中高年者にわかりにくいとされている山の気象を，難しい専門用語をさけ，図表や写真を豊富に入れて平易に解説.

369　思わず人に話したくなる56のストーリー**天気予報の裏を読む：幣　洋明：ダイヤモンド社：1992：213P**　天気予報の舞台裏から気象情報のビジネスへの生かし方，天気ストレスから身を守る方法まで，気象の雑学集であるが，天気でつくるビジネスチャンスが本書の内容のエッセンスとなっている.

370　そこが知りたい**［天気とカラダ］**の不思議関係**：原田龍彦：雄鶏社：1994：220P**　天気の変化は人の体や健康，心理に大きな影響を及ぼす．動植物はもっと季節や天気，気温に敏感に反応する．本能であろう．人間を含めた生物たちと気候との係り合いについて身近な問題をとらえて雑学風に記述.

371　**日本の気象と暮らし** ― 生活カレンダー ― **：上篠　健：近代文芸社：1994：120P**　日本列島の気象特性と日本人の行動準拠の一つとなっている各種行事等との関連・結びつきを明らかにした民俗気象を日常生活に役立ててもらいたいというのが著者のねらい.

372　**気になる天気の話146：水沢　周・藤井幸雄：講談社：1994：240P**　歴史を動かした気象の話，四季をいろどる気象と風物．健康のための気象知識，科学がとらえた気象の不思議など，日本史・世界史・季節・健康・科学の分野から146のお天気コラムが集められてある.

気候変動・気候変化・異常気象・気象災害（気象業務法に含まれている火山噴火と地震による災害を含めて）と防災を主に対象としているもの.

373　気候の変化が言葉をかえた：鈴木秀夫：日本放送出版協会：1990：224P　自然地理の硯学が言語年代の成果をふまえながら，気候と言語のダイナミックな関連性を一万年の人類史の中で実証する野心的試みである．

374　温室効果気体の増加に伴う気候変化（II）：気象庁：大蔵省印刷局：1990：234P　「温室効果検討部会」の検討結果をとりまとめたもので，日本に影響する地域的気候変化の見通しも解説．

375　異常気象最新レポート：UTAN 編集部：学習研究社：1992：146P　フィリピンのピナツボ火山噴火がもたらした世界的な冷夏，地球温暖化が引き起す世界異常気象，東京はじめ大都市に迫る熱汚染など，全世界同時異常気象・日本を襲う異常気象の脅威の２部構成からなるレポート．

376　微粒子が気候を変える大気環境へのもう一つの視点**：三崎方郎：中央公論社：1992：208P**　化石燃料からの硫酸塩粒子，火山の噴煙，油井火災のスス等の，成層圏と対流圏に浮遊している微粒子がもたらす影響を最新の情報を基に考察．気候を変動させるのは CO_2だけではないという著者の主張にうなづける．

377　世紀末の気象：根本順吉：筑摩書房：1992：224P　地球の温暖化は CO_2による温室効果といわれているが，太陽活動の活性化こそ最大の原因であると著者は主張し，長い地球の歴史からそれを証明する独自の気象論．

378　酸性雨と酸性霧：村野健太郎：裳華房：1993：179P　酸性雨，酸性霧は今日国際問題にまでなっている．本書はその調査・研究の結果を含めて，酸性雨，酸性霧に関する国内外の実態を紹介し，生態系への影響，防止対策に焦点を絞りわかりやすく解説．

379　地球の気候はどうきまるか？：住　明正：岩波書店：1993：160P　地球はいつも規則的に回転しているのに，気候の方は，暖冬があり冷夏もあって毎年同じようにはならない．なぜ気候は変化するのか？気候を決める法則性を探り地球環境の行方を考察．

380　気候が文明を変える：安田喜憲：岩波書店：1993：128P　最近は地層中の花粉を調査して過去の気候の様子を復原する．こうして先史・古代の文明の破壊などが地球規模の気候変動から統一的に説明が可能となった．気候変動と文明への影響について解説し，歴史を見る新視点を提供．

381　地球異常［気候激変時代への警告］**：山元龍三郎：集英社：1993：238P**　日本の冷夏や米国の大洪水など，異常気象が続くと，地球規模ではなにか大きな変動が進んでいる影響なのか，と考えたくなる．本書はその疑問にやさしく答える．国際問題となっている地球温暖化問題の本質を具体的データに基きながら丁寧に解説し，気候激変時代の到来を警告している．

382　近年における世界の異常気象と気候変動**異常気象レポート94：気象庁編：大蔵省印刷局：1994：455P**　気象庁が観測・収集した各種の国内外のデータをもとに調査した気候変動および異常気象の実態調査等をとりまとめた1974年から続く第５回目の報告書．

383　超異常気象30年の記録から**：根本順吉：中央公論社：1994：242P**　異常気象は30年以上に１回の稀な気象と定義されているが，この下限を桁違いに越えて，何百年，何千年，ものによっては何万年以上に１回の稀な気象を超異常気象とする著者の臨床的気象診断書．

384　気候変動は歴史を変える：朝倉　正・高橋浩一郎：丸善：1994：169P　気候変動とわれわれの歴史とのダイナミックな関係を，気温・降水量・太陽黒点などのパラメーターと比較し，気候変動が地域社会に何をもたらし，われわれの文明がどのように変ってきたのか，そして近未来どのように変っていくのかを予測．

385　冷害 ― その構造と農家の対応 ― **：関　正治：明文書房：1980：220P**　周期的な気象変化と人間の意識や行動が織りなして４，５年に一度の割合で発生する冷害を回避し国民食料を安定的に確保するには，冷害のメカニズムと対応法を知らねばならぬ．そのための好適な参考書．

386　豪雪 ― 五六豪雪と三八豪雪 ― **：富山地学会：古今書院：1982：266P**　昭和56年，北陸地方を襲った豪雪は，車社会の進展と生活様式の変化により，これまでにない大きな被害を生んだ．38年の豪雪と比較しながら，災害の分析，雪質の科学，克雪対策，雪利用など，雪に備える生活を解説．

387　異常気象と環境破壊：朝倉　正：読売新聞社：1990：230P　日常生活に直接影響をもたらす，冷夏・猛暑・豪雪・暖冬・干ばつ・長雨など，異常気象の形態を発年別に述べると共に，異常気象が人為的原因と考えられる地球環境諸問題と深く係わっていることを易しく解説．

388　地域の安全を見つめる**地域別［気象災害の特徴］：高橋浩一郎・高橋　裕・光田　寧・宮澤清治他：（社）日本損害保険協会：1991：193P**　気象災害に対する防災を考えるとき，災害種類ごとに考察するだけでなく，地域特性をしっかり踏まえ，対策を講ずることが重要といえる．本書は２部構成で，第１部では日本全国から見た気象災害，第２部では全国を９区に分け，それぞれに特徴的な気象災害を気象学的，地学的に解説．

389　暴風・台風びっくり小事典目には見えないスーパー・パワー**：島田守家：講談社：1992：230P**　台風・竜巻・ダウンバーストなどによる過去の暴風災害などの事例を検証しながら，その驚くべきパワーの秘密をわかりやすく紹介．

390　台風の科学：大西晴夫：日本放送出版協会：1992：192P　台風の襲来を避けられない以上，台風をよく知り，情報を利用して被害を最小限に抑えることが重要である．そのための基礎知識，台風研究の最先端を図を多用してわかりやすく解説．

391　地震はどこに起こるか：島村英紀：講談社：1993：302P　いつ，どこに，どんな大きさの地震が起こるのか．地震が起こる複雑なメカニズムを最新の理論を紹介しながら，わかりやすく解説し，地震にいかに立ち向うかを説いている．

392　巨大地震と大噴火：伊藤和明（監修）：世界文化社：1993：141P　北海道奥尻島大惨事，雲仙普賢岳の恐怖，たび重なる大異変は，一体何を意味しているのか？最新のデータで徹底的に分析したレポート．

気候にかかわる文学（随想を主に）・歴史・俚諺・歳時記など．

393　江戸晴雨攷：根本順吉：アドファイブ出版局：1980：356P　江戸時代の文人たちの日記を丹念に渉猟し味わいながら，当時の気象を適確に再現．江戸時代に生きた人々の天候に寄せる深い関心を蘇らせる．

394　観天望気のウソ・ホントどこまであたる？お天気ことわざ**：飯田睦治郎：講談社：1989：251P**　古くから伝わる観天望気の技法を，誰でもできるよう豊富な写真や，資料で解説．全国各地に残る天気に関する俚諺を科学的に分析．

395　雨のち曇り，ときどき晴れのサイエンス：嶋村　克・山内豊太郎：ＰＨＰ研究所：1991：251P　雲はなぜ空に浮かぶのか？台風はなぜ発生するのか？異常気象は本当に地球を襲うのか？天気に関する素朴な疑問に易しく答える科学読物．

396　四季のたより忘れかけた季をたずねて**：倉嶋　厚：丸善：1991：190P**　春夏秋冬の移り変わりを造詣深く語り綴るカラ ― 版歳時記．目に映るありのままの自然の彩り126編は，現代

人の忘れかけた心を呼び起こさせる.

397　ウェザーキャスター：Robert Henson ウェザーニューズ訳：青英舎：1991：207P　タイトルが示す通り天気予報番組の話であるが，それだけでなく，米国の天気予報の歴史を19世紀までさかのぼって書いている．毎日さりげなく眺めている天気図の後ろで膨大な歴史があることがわかるとともに，身近な天気から米国の一面を新たな目で発見できる本.

398　お天気となかよくなれる本世界気象博物誌：**GaryLockhart グループW訳：丸善：1991：174P**　世界各地に残る諺や言い伝え，予報エピソードに見る民族気象学．先人たちの積み重ねてきた経験や知識に触れると，自然の不思議が見えてくる．生活体験から得られた天気についての様々なことを教えられる.

399　空の名前：高橋健司：光琳社出版：1992：200P　天候や季節の移ろいに関する日本人の繊細な感性が生み出した．嫋やかな言葉の数々．現代人が忘れ去りつつあるこれらの日本語を300点の写真で綴る歳時記風天気図鑑.

400　お天気博士の**季節へのラブレター：倉嶋　厚：日本放送出版協会：1992：160P**　気象キャスターとして，またコラムニストとして著名な著者の気象エッセイ集．気象現象をわかりやすく解釈し，実生活に生かす知恵に満ちた，味わい深い文集.

401　お天気衛星 ― 四季をみつめた気象メモ ― **：倉嶋　厚：丸善：1992：229P**　生活の中での季節を昔からの諺，俳句，言い伝え，行事などを折込み綴る気象エッセイ，著者が見てきたものを観たものとして伝える198編で構成する気象メモ.

402　お天気博士の**春夏秋冬：倉嶋　厚：三笠書房：1993：285P**　桜かくしの雪，新緑寒波．卯の花くたし，霜日和など，あまり馴染まれてない天気現象の表現を，四季折々の自然とともにさわやかに説く気象歳時記.

気象業務と行政のことを対象としたもの.

403　天気予報の秘密全部教えます ― テレビじゃここまで言えないとっておき ― **：森田正光：経済会（RYU BOOKS）：1990：227P**　国家公務員という立場上，表に出ることの少ない予報官たちに代わって，天気予報の舞台裏を紹介したもの，誰がどんなふうに予報を出すか，天気予報はなぜ外れるか，天気解説者の仕事は何か，ひまわり・レーダー・アメダスは三種の神器，まだまだわからない不思議現象を分析など，天気予報について，多くの人々に興味をもってほしいのが著者の意図である.

404　気象業務関係法令集平成四年版**：気象庁（監修）：ぎようせい：1992：263P**　気象の予報警報．災害の未然防止及び災害時における安全の確保等を図る気象業務法をはじめとする関係諸法令を体系的に編集.

405　あなたもなれる気象予報士予想問題集：ウェーザーニューズ編：講談社：1994：205P　平成６年５月気象業務法の一部が改正され，気象業界に新しい世界が展開した．それは民間でも気象業務が行なえるようになり，国家資格としての気象予報士による予報業務である．本書は気象予報士資格取得のための手引きとなる一冊.

気候誌に属するもの.

406　極地気象のはなし：井上治郎（編著）：技報堂出版：1992：173P　広辞苑によれば，極地とは，はての地・南北極地方と示されている．はての地の代表格は，チベット・ヒマラヤ山地である．その高さからも大気大循環の障害物として働き，気候の変動に大きな影響を与える.

アジアモンスーンの熱源として働く．チベット・ヒマラヤは自然条件の厳しさから調査・研究があまりなされていない．本書は，故人となった編著者の依頼を受けていた12名の執筆からなり，他の極地も含めた極地気象研究が紹介されている．

407　滋賀県の気象：彦根気象台（編）：大蔵省刷局：1993：227P　創立100周年を迎えた彦根地方気象台の記念事業の一環として発刊されたもので，防災関係者の参考資料，あらゆる産業への気象資料等に役立つ滋賀県の気象に関する資料がとりまとめてある．

408　南極の四季：神沼克伊：新潮社：1994：257P　各国の南極基地では約千名の観測隊員が年間を通して生活している．地球上最後のフロンティアである南極の四季折々の自然と，その厳しい環境の中で生活する人々の生活ぶりが描かれている．

409　伊勢湾岸の大気環境：大和田道雄：名古屋大学出版会：1994：224P　20年以上にもおよぶ伊勢湾岸地域の大気環境についての調査・研究をもとに，極地気流や循環，湾岸都市の大気環境，居住気候環境と気象災害など，伊勢湾岸地域特有の現象を局地気候学の立場から明らかにしている．地域開発・都市計画の今後のための基礎資料として一読の価値がある．

気候の基礎的知識習得に適切と考えられるもの

（最新となっている文献は前回報告した文献の全面的改訂版）

410　空気の発見：三宅康雄：角川書店：1962：144P　気象・気候学を学ぶには，地球的規模では大気，身近では空気についての知識が必須の条件となる．空気にも重さがある．気体の体積は圧力で変わる，空気は化合物か，アルゴンの発見，気圧は高さで変わる，大気のあたたかさ，空気の組成が変わる高さなど空気についての疑問40項目に対してわかり易く多角的に説明．

411　天気100のひみつ：清水教高（監修）：学習研究社：1975：141P　漫画に強い現代っ子の心情にマッチした楽しい気象の啓蒙．漫画の特性をフルに活用し天気と親しむ入門書で資料も豊富．

412　気象学：関岡　満：東京教学社：1981：126P　天気現象を理解するための基本的な気象要素，気圧・気温・湿度・風速などの説明が現実的に理解できるよう記述され，最も劇的な天気現象の一つである台風を冒頭に記した異色な気象学入門書．

413　ウェザー・ウォッチング ― 身近な気象のふしぎを探る ― **：塚本治弘：日本交通公社出版事業局：1986：110P**　きらめきの季節春，太陽の季節夏，静けさの季節秋，きびしさの季節冬，都会の気象の5分野に分けて，身近な気象の不思議を探るアウトドア図解を豊富に取り入れたハンドブックである．

414　天気の辞典：新井重男（編）：三省堂：1990：256P　古より，文化・行動に影響を与えてきたわが国の気象を，実際の暮らしの中で役立つように編集した辞典．天気の基礎知識からハイテクまで収録．気象用語編・資料・索引など完備されている．

415　お天気無用の雑学知識**：おもしろ気象観測隊：ＫＫベストセラーズ：1990：231P**　毎朝，空模様が気にかかると言う人々を対象に，全編すべて天気にまつわる話題が網羅されている．天気の章・雨の章・風の章・雪の章・台風の章・霧と雷の章・天気の珍記録など天気予報に強くなる知識が効能をもたらしてくれる．

416　最新**天気図と気象の本：宮澤清治：国際地学協会：1991：167P**　気象庁天気相談所長を長年にわたり務めた著者が，むずかしい気象学や天気図をわかりやすい言葉で語る気象学書．気象情報の取得のとき身近に置くと絶好な一冊．

417　気になる気象の話：能沢源右衛門：成山堂：1991：208P　天気はわれわれが呼吸してい

る大気中で起こりわれわれに最も関係が深い自然現象である．この天気がどうして生じどうして変化するかを面白く説明した本．

418　天気のことがよくわかる本：藤井幸雄：西東社：1990：196P　毎日毎日の天気の観察の正しい方法をまとめたもので，グラフや図表が多数入れてあり日常生活の中で常に手元においておけば役に立つ本．

419　雲と風を読む：中村和郎：岩波書店：1991：166P　なぜ各種な雲形が浮かぶのか，風はどこから吹いて来て，どこに吹いて行くのか？ふと抱く小さな疑問から雲と風の読みが始まる．日常的な現象から大気の流れまで，読み方を紹介．

420　暮らしと環境と**空気の話：松下精工株式会社（編）：東洋経済新報社：1991：224P**　生活の中の空気から宇宙の果ての空気まで，とらえどころのない姿を目に見える形で示したエピソード事典．空気の以外な素顔を紹介し，暮しと環境を考えさせる本．

421　［最新］**気象の事典：和達清夫（監修）：東京堂：1993：623P**　気象学・気候学及び応用面にわたり3600項目を収録し，気象業務に係る技術者や一般にも使えるよう専門家61氏が分担執筆．1929年の初版，1974年の新版を全面的に改稿し気象年表・災害年表など多数の資料収録．

422　百万人の天気教室：白木正規：成山堂：1993：224P　天気に関心のある高校生や一般の人々を対象に，天気の判断に役立つ知識を，豊富な図表とともに読みやすく，かつわかりやすく，基礎から応用まで順序立てて解説しているので独習書にも適した入門書．

423　気象と環境の科学天気予報の科学からエル・ニーニヨまで**：山崎道夫・廣岡俊彦：養賢堂：1993：321P**　1989秋，東京都北区教育委員会が10数年来開催している社会人を対象とした北区区民大学で各専門家が各自の専門とするところを11回にわたり話した内容を読み切りの形でまとめたもの．最近の天気予報と気象観測・気象災害・森林と気候・オゾンホールと気候変動など８章が主な内容．

424　［ひまわり］で見る四季の気象 ― 雲画像の見方 ― **：日本気象協会（編）：大蔵省印刷局：1993：224P**　国民生活の中で天気予報が充実され，天気図とともに一般的になった気象衛生ひまわり画像について解説，日本の天気を代表するもの，特異現象等を選択し，四季別に編集されている．

425　日本気候図1990年版**：気象庁（編）：大蔵省印刷局：1993：126P**　気候変動や異常気象の把握の基となるのは，30年間の平均値である平年値であり，これを図式化したものが気候図はである．本気候図は，従来の気候図と異なりオゾン，海洋，高層気象観測等の資料を加え，気象状態を多面的に捉えている．

426　とってもわかりやすい気象の本**実践的お天気入門：阿陁光南：山海堂：1994：191P**　正しい天気の情報を得るために，天気予報の聞き方と集め方，諺と気象衛星による観天望気，アウトドアによる天気とのつきあい方など，現実に即して，天気のことが理解できないものだろうかという著者の意図が表れている．

427　理科年表1994年版**：国立天文台（編）：丸善：1994：211P**　本年表の191ページから401ページまでの気象部が，大きく改訂されている．それは10年ごとに改められる気象・気候の平年値を最新の30年平均，すなわち1961年より1990年までに改訂．

要　　約

生活科学の諸分野が気候（気象も含め，以下同じ）とどのようなかかわりをもちながらどの

ように学際性を発展させているかを知る一つの方法として，関連文献の収集と検索を行ない，文献70点を選択して利活用に有効となるよう６分野に分類し，発刊年代順に整理した第１報（名古屋女子大学紀要，第**27**号，1981），第２報（名古屋女子大学紀要，第**32**号，1986），第３報（名古屋女子大紀要，第**34**号，1998），第４報（名古屋女子大学紀要，第**36**号，1990）につづく第５回目の文献目録作成報告である．分類は，次の６分野としてある．

(1) 日常生活一般・各種産業と経済，経営・健康と疾病・各種レジャーなどと気候のかかわりが主な内容となっているもの．
(2) 気候変動・気候変化・異常気象・気象災害（気象業務法に含まれている火山噴火と地震による災害も含めて）と防災を主に対象としているもの．
(3) 気候にかかわる文学（随想を主に）・歴史・俚諺・歳時記など．
(4) 気象業務と行政のことを対象としたもの．
(5) 気候誌に属するもの
(6) 気候の基礎的知識習得に適切と考えられるもの．

著者らは今回70点余の文献の収集と検索を行なったが，いまや気候（気象も含め）情報は，日常生活に与える影響はきわめて大きく，幅広い分野にわたって欠かすことのできない重要なファクターとなっていることを重ねて認識することがてきた。

文　　献

1）石田竜次郎，吉野正敏：地理学研究のための文献と解題，51～64，古今書院（1969）
2）関根勇八，酒井俊二：気象情報の利用 ― 新しい応用気象学 ―，20～34，東京堂（1987）
3）井上啓男，広　正義：名古屋女子大学紀要，**34**，155～165（1988）
4）井上啓男，広　正義：名古屋女子大学紀要，**36**，147～156（1990）
5）（株）日本出版販売：DO BOOK，**6**・第６号，26～28，（株）日本出版販売（1994）